第二節　法人税法施行規則

（昭和一五年三月三一日勅令第一三五號）

第一條　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ所得ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ法人税法第四條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ所得ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條　法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ所得ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ法人税法第四條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ所得ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第三條　法人税法第七條第一項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第四條　法人税施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ總資産價額ニ對スル同法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第五條　左ニ掲グル公共團體ニハ法人税法第十一條ノ規定ニ依リ法人税ヲ課セズ

一、府縣組合、府町村組合、町村組合、市町村内ノ區、町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキ團體、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合

耕地整理組合聯合會、北海道土功組合、重要物産同業組合、重要物産同業組合聯合會、森林組合、森林組合聯合會、酒造組合、酒造組合聯合會、酒造組合中央會、水産組合、水産組合聯合會、外國領海水産組合、外國領海水産組合聯合會、畜産組合、畜産組合聯合會、農會、水産會、商工會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準ズベキモノ

二、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得税ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

法人タル宗教團體ニハ宗教團體法第二十二條ノ規定ニ依リ法人税ヲ課セズ

第六條　左ニ掲グル物産ノ製造業ヲ營ム法人ニハ法人税法第十二條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税ヲ免除ス

一　金、銀、銅、鉛、亞鉛、錫、ニツケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金竝ニ水銀

二　鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管（鑄鐵管ヲ除ク）

三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四　アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金

五　球軸受、コロ軸受及同部分品
六　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
七　アルミナ、クリオリツト、チタン白、カーボンブラツク、石灰窒素、硫酸ガリ、燐酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸（アンモニア酸化ニ依ルモノ）、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゾール、合成トルオール、アセチルセルロース、人造ゴム、人造レジン（フエノールレジンヲ除ク）、人造タンニンタンニンエキス及タンニン代用エキス（パルプ廢液ヨリ製造スルモノ）
八　纖維素パルプ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石綿
九　光學用ガラス
十　コンデンスドミルク、カゼイン、大豆カゼイン及落花生カゼイン
十一　感光性乳劑ゼラチン
十二　鯨革及鮫革

左ニ掲グル物產ノ採掘又ハ採取ノ事業ヲ營ム法人ニハ法人稅法第十二條ノ規定ニ依リ所得ニ關スル法人稅ヲ免除ス

一　金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、ニツケル鑛、水銀鑛及クロム鐵鑛

二　石油及石炭
三　砂鑛

第七條　前條ノ製造、採掘若ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ事實アル法人ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付所得ニ對スル法人稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第八條　法人稅法第十二條ノ規定ニ依リ法人稅ノ免除ヲ受ケントスル法人ハ同法十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ第六條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ第六條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第九條　法人稅法第十三條ノ規定ニ依リ法人ノ各事業年度ノ所得金額ヨリ所有國債ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ國債ノ種類別ニ其ノ利子額、之ニ對スル外貨債特別稅相當額又ハ配當利子特別稅相當額及控除ヲ受クベキ利子額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第十條　法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得金額ヨリ控除スベキ臨時利得

稅額ハ法人稅ヲ課スベキ所得金額ノ總所得金額ニ對スル割合ヲ臨時利得稅總額ニ乘ジ之ヲ計算ス

第十一條 法人稅法第四條ノ規定ハ同法第十五條ニ規定スル法人ノ淸算期間中ニ於テ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル所得ニシテ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條 法人稅法第十六條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除スベキ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額中公債若ハ社債ノ利子又ハ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配（利益ノ配當ト稱ス以下同ジ）ニ對スルモノハ其ノ元本ヲ所有シタル期間ノ利子又ハ利益ノ配當ニ對スルモノニ限ル

前項ノ元本ヲ所有シタル期間ノ利子又ハ利益ノ配當ニ對スル分類所得額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ計算ス

一　元本ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル分類所得稅額ハ其ノ納付シタル分類所得稅額ヲ其ノ元本タル公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ按分シテ之ヲ計算ス

二　元本ヲ所有シタル期間ノ利益ノ配當ニ對スル分類所得稅額ハ其ノ納付シタル分類所得稅額ヲ其ノ元本ヲ所有シタル期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額ト所有セザリシ期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額トニ按分シテ之ヲ計算ス

第十三條 法人稅法第十六條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額ヨリ分類所得稅額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ノ種類別ニ其ノ利子若ハ利益又ハ法人ヨリ受クル利益ノ配當、納付シタル稅額及控除ヲ受クベキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第十四條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル法人ニ對シ其ノ計算ヲ證明スベキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 法人稅法第十六條第五項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

第三條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十六條 法人稅法第十七條ノ規定ニ依リ所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第三條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十七條 左ノ各號ニ掲グル關係アル場合ニ於テ各號ニ規定スル出資者ノ出資持分ノ割合ガ百分ノ五十以上ナルトキハ各號ニ掲グル法人ハ其ノ相手方ニ對シ法人稅法第十七條第三項ニ規定スル出資關係アル法人トス

一　法人ト其ノ出資者（株主又ハ社員ヲ謂フ以下同ジ）トノ關係

二　法人ト其ノ出資者ノ親族、使用人等出資者ト特殊ノ關係アル個人（同族關係者ト稱ス以下同ジ）トノ關係

三　法人ト其ノ出資者ノ同族關係者ヲ出資者トスル他ノ法人トノ關係

四　出資者ガ同一ナル二以上ノ法人ノ相互間ノ關係

前項ニ於テ出資持分ノ割合トハ法人ノ株式金額又ハ出資金額ニ對スル出資者ノ有スル株式金額又ハ出資金額（出資者ノ同族關係者ガ共ニ出資者ナルトキハ其ノ株式金額又ハ出資金額ヲ合算ス）ノ割合ヲ謂フ

第十八條　法人ノ各事業年度ノ所得及資本ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十九條　解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ殘餘財産ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スベシ

第二十條　合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十一條　稅務署長又ハ其ノ代理官法人稅法第二十條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第二十二條　稅務署長法人稅法第十九條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額及資本金額ヲ決定シタルトキ又ハ同法第十七條ノ規定ニ依リ稅額加算ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第二十三條　法人稅法第二十三條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル法人ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ法人ノ所得金額又ハ資本金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第二十四條　所得稅法旅行規則第七十九條ノ規定ハ法人稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條　稅務監督局長法人稅法第二十四條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額、資本金額又ハ稅額加算ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

附　則

第二十六條　本令ハ法人稅法旅行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條　各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年一月以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

第二十八條　法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ法人税法第四條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第二十九條　法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得税ハ之ヲ法人税法第三十六條ニ規定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税トス

第三十條　法人税法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額ヨリ控除スベキ鑛産税額及特別鑛産税額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ産出シタル鑛産物ニ對シ納付シタル鑛産税及特別鑛産税額ノ合計額ヨリ當該事業年度ニ於ケル鑛業ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ控除シタル殘額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル鑛業ノ所得金額ニ百分ノ十八ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

法人税法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額ヨリ控除スベキ取引所營業税額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對シ納付シタル取引所營業税額ノ十一分ノ三ニ相當スル金額ヨリ當該事業年度ニ於ケル取引所ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ控除シタル殘額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル取引所ノ所得金額ニ百分ノ十八ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ規定及營業税法施行規則第三十五條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額及營業税額ヨリ

控除スベキ鑛産税額、特別鑛産税額又ハ取引所營業税額ハ法人ノ各事業年度ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第三十一條　法人税法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額ヨリ鑛産税額、特別鑛産税額又ハ取引所營業税額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛産税及特別鑛産税ニ在リテハ鑛産物ノ種類別ニ其ノ價額、納付シタル鑛産税額及特別鑛産税額竝ニ控除ヲ受クベキ鑛産税額及特別鑛産税額ニ關スル明細書ヲ、取引所營業税ニ在リテハ毎月ノ賣買手數料收入金額、納付シタル取引所營業税額及控除ヲ受クベキ取引所營業税額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第三節　臨時利得税法

（昭和一〇年三月三〇日　法律第二〇號）

改正　昭和一二年三月法律第三號、同一三年三月同第四三號、同第四四號
同第四五號、同一四年三月同第四九號、同一五年三月同第三二號

第一條　本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條　前條ノ規定ニ該當セザル者本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノミ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條　臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一　法人ノ利得

二　所得稅法第十條ニ掲グル營業ニ因ル個人ノ所得（營業所得ト稱ス以下同ジ）

三　船舶（製造中ノ船舶ヲ含ム）又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得（讓渡利得ト稱ス以下同ジ）

第四條　法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス

第五條　法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ現事業年度ノ剩餘金ニ依ル

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人稅及臨時利得稅竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル分類所得稅ニシテ法人稅法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以內ニ開始シタル事業年度モ於テ生ジル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

第五條ノ二　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條ノ三　所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ臨時利得稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

信託會社ノ現事業年度ノ利益ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第六條　法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ命令ノ定ムル定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條　本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第八條　合併存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得

ニ付臨時利得税ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費（收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ）ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得税及臨時利得税ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ課セズ

第十一條ノ二 讓渡利得ハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス

前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條ノ三 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ法人税法其ノ他ノ法律ニ依リ法人税ヲ課セラレザルモノニハ臨時利得税ヲ課セズ

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ二 船舶ノ讓渡ニ因ル利益ニシテ第九條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十四年一月一

日以後ニ於テ設定セラレタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニシテ命令ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本法中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十四條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ二十五

二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ四十五

三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得　利得金額ノ百分ノ六十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對

スル割合トス但シ其ノ割合ガ年百分ノ十未滿ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合ガ年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)乃至第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種所得稅　第一種所得稅附加稅　命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅及臨時利得稅竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ所得稅法ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第十四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

前項ノ增加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超

過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ醵金及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ四 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十四條ノ五 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

營業利得　利得金額ノ百分ノ三十

讓渡利得　利得金額ノ百分ノ二十五

第十五條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依

リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後營業利得金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ增加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 稅務署長ハ毎年營業利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 所得稅法第三十七條、第三十八條及第六十三條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知

[illegible]ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徴收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得税法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得税法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 削除

第二十四條 削除

第二十五條 第二十二條ノ決定ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得税ヲ徴收ス

營業利得ニ付テハ臨時利得税ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徴收ス但シ納税義務者納税管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得税ヲ徴收スルコトヲ得

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　其ノ年十月一日ヨリ三十一日限

第三期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期　翌年三月一日ヨリ三十一日限

譲渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ譲渡ノ際臨時利得税ヲ徴收ス

第二十七條 詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罰ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得税ヲ逋脫シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第二十八條 臨時利得税ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 所得税法第三十六條第四項、第三十九條第二項、第七十五條、第七十六條、第八十一條、第八十二條及第八十四條乃至第八十六條竝ニ法人税法第二十八條ノ規定ハ臨時利得税ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得税ヲ課セズ

第八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、

關東州、樺太又ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第三十二條 大正十三年法律第六號ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除セラルル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セズ

第三十三條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附　則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六　臨時利得稅

附　則（昭和一三、三、法律四五）

第一條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第二十四條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

第三條 臨時租稅增徵法第十九條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅及昭和十三年分以降ノ個人ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 昭和十三年三月三十一日迄ニ終了シタル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ニ付テハ第十四條ノ改正規定ニ拘ラズ甲種利得ニ對スル臨時利得稅ノ稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トス

第五條 北支事件特別稅法第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル臨時利得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

第六條 臨時利得稅法第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月十五日トス

附　則（昭和一四、三、法律四九）

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又

ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本法ヲ適用ス
譲渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ譲渡ニ因ル利得ニ對シ本法ヲ適用ス

附　則（昭和一五、三、法律三二）

第一條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

第三條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅及資本利子稅ニシテ法人稅法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得稅ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅竝ニ清算所得ニ對スル第一種所得稅及第一種所得稅附加稅ハ之

ヲ法人稅ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第四條　本法施行後終了スル事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅及資本利子稅ニシテ法人稅法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得稅ト看做シ第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス

第五條　昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ハ第五條第二項ノ改正規定ニ拘ラズ法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第六條　昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ營業利得金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設ケルコトヲ得

第七條　第十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ四月十五日トス

第四節　臨時利得稅施行規則

（昭和一〇年三月三〇日勅令第三七號）

改正　昭和一三年四月勅令第一九四號、同一四年三月同第一七一號、同一五年三月同第一四二號

第一條　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ利益ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ
法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ臨時利得稅法第五條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其

ノ事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ利益ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ臨時利得税法第五條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第三條 臨時利得税法第四條ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ暦ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ臨時利得税法第十四條第一項ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額、現事業年度ノ資本金額ニ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額又ハ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條 削　除

第五條 削　除

第六條 臨時利得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ總資産價額ニ對スル臨時利得税法施行地ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當

ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第七條第八條 削　除

第九條 營業利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納税義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ前營業者ガ法人ナルトキハ法人ノ營業ニ付臨時利得税法第十條第一項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第十條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得税ニ課スベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十一條 個人ノ利益ハ臨時利得税ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第十二條 臨時利得税法第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十二條ノ二　譲渡利得ノ金額ハ臨時利得税法第十一條ノ二ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

一　船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日後ニ於テ取得シタルモノノ取得價額ハ製造又ハ創設ニ因リ取得シタルモノニ付テハ其ノ製造費又ハ創設費（鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニ在リテハ探鑛ノ費用ヲ含ム）ニ依リ他人ヨリ譲渡ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ對價（取得ニ關スル必要ノ經費ヲ含ム）ニ依ル

二　相續、贈與又ハ遺贈アリタル船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ハ之ヲ被相續人、贈與者又ハ遺言者ガ取得シタル時ニ於テ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ取得シタルモノト看做シ被相續人、贈與者又ハ遺言者ノ支出シタル設備費、改良費又ハ譲渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

三　被相續人ノ爲シタル譲渡ヲ相續人ノ爲シタル譲渡ト看做ス場合ニ於ケル譲渡利得ノ金額ハ被相續人ノ爲シタル譲渡ニ付計算シタル譲渡利得ノ金額ニ依ル

第十二條ノ三　昭和十四年一月一日以後ニ於テ左ニ掲グル原因ニ因ラズシテ自己ガ原始的ニ取得シタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ノ譲渡ニ付テハ臨時利得税法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ譲渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

一　鑛區又ハ砂鑛區ノ合併、分割又ハ分合

二　試掘權ノ設定アル鑛區ニ付テノ採掘權ノ取得

三　試掘權ノ存續期間滿了ニ因ル更新

第十三條　臨時利得税法第十四條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度（既往各事業年度ト稱ス以下同ジ）ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ既往各事業年度ノ期間ガ現事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往各事業年度ノ利益ハ既往各事業年度ノ月數ノ現事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ既往各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ現事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十三條ノ二　臨時利得税法第十四條ノ二第一項ノ平均資本金額ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十三條ノ三　臨時利得税法第十四條ノ二第一項ニ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益ヲ除シテ之ヲ計算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ四　臨時利得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得税ハ之ヲ第

十四條ノ二第二項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第十四條 臨時利得稅法第十四條ノ三第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ヲ計算スル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額以外ノ部分ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ハ臨時利得稅法第十四條ノ二第一項但書ノ規定ヲ適用シタル割合トス

第十四條ノ二 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往各事業年度ノ全部ノ平均資本金額及平均利益竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往各事業年度ノ資本金額及利益竝ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ヲ合算シテ之ヲ計算ス

第十五條 法人ノ利得金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ淸算著手ノ日ヨリ二十日內ニ利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ法人稅法ニ依ル所得及資本ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スベシ但シ所得稅法ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十六條ノ二 讓渡利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノ日ヨリ二十日內ニ利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スベシ

前項ノ申告書ニハ讓渡シタル船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ明細書ヲ添付スベシ

第十七條 第九條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所竝ニ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ臨時利得稅法第十六條第一項ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十八條 稅務署長臨時利得稅法第十七條、第十九條又ハ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ規定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十九條 臨時利得稅法第二十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ズベシ

第二十條 稅務監督局長臨時利得稅法第二十二條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

所得稅法施行規則第八十三條乃至第八十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 削除

第二十三條 削除

第二十四條 所得稅法施行規則第五十九條、第七十七條、第七十九條、第百十條乃至第百四條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ臨時利得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外臨時利得稅ヲ課セズ

一 臨時利得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者利得金額決定後朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル利得金額決定前臨時利得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

附 則

本令ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ淸算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ニ付テハ第十五條ノ申告ハ本令施行後十四日內又ハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

第十七條ノ規定中三月十六日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十六日トス

附 則（昭和一三、四、勅令一九四）

本令ハ昭和十三年法律第四十五號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十七條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ淸算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否トヲ問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日內ニ、淸算著手ノ場合ニ在リテハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

附 則（昭和一四、三、勅令一七一）

本令ハ昭和十四年法律第四十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否トヲ問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日以内ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日以内ニ之ヲ爲スベシ

昭和十四年一月一日以後同年三月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル讓渡利得ニ對スル臨時利得税ニ付テハ第十六條ノ二ノ規定ニ拘ラズ利得金額ノ申告期限ヲ昭和十四年四月二十日トス

附　則（昭和一五、三、勅令一四二）

第一條　本令ハ昭和十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條　法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條　法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ臨時利得税法第五條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第四條　臨時利得税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得税ハ之ヲ昭和十五年法律第三十二號附則第三條ニ規定スル第一種所得税附加税ニ相當スル租税トス

第五條　昭和十五年法律第三十二號附則第六條ノ規定ニ依ル昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ臨時

利得税ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業利得金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一　昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業シ又ハ相續ニ因ルニ非ズシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セザル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ乙種利得ニ付納税義務アルニ至リタル者ニシテ改正前ノ臨時利得税法第十七條第三項ノ規定ニ依リ個人ノ乙種利得金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二　昭和十四年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得税ヲ免除ス

三　昭和十五年一月一日以後昭和十五年分營業利得金額決定前、營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ營業利得計算ノ基礎タル利益ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

四　昭和十四年分營業利得金額決定後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ營業利得金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラズ當該營業ノ營業利得金額ニ對スル昭和十五年分ノ臨時利得税ニ付當該營業ノ昭和十四年分ノ乙種利得ニ對スル臨時利得税額ニ相當スル金額ヲ輕減ス

五　昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五節　營業稅法

（昭和一五年三月二九日　法律第三三號）

第一條　本法施行地ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本法ニ依リ營業稅ヲ課ス

第二條　本法施行地ニ營業場ヲ有シ左ニ掲グル營業ヲ爲ス個人ニハ本法ニ依リ營業稅ヲ課ス

一　物品販賣業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム）
二　金錢貸付業
三　物品貸付業（動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ貸付ヲ含ム）
四　製造業（瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム）
五　運送業（運送取扱ヲ含ム）
六　倉庫業
七　請負業
八　印刷業

九　出版業
十　寫眞業
十一　席貸業
十二　旅人宿業
十三　料理店業
十四　周旋業
十五　代理業
十六　仲立業
十七　問屋業
十八　鑛業
十九　砂鑛業
二十　湯屋業
二十一　理髮美容業
二十二　其ノ他命令ヲ以テ定ムル營業

第三條　營業稅ハ左ノ純益ニ付之ヲ賦課ス

一　法人

各事業年度ノ純益

清算純益

二　個　人

前條ニ掲グル營業ノ純益

第四條　法人ノ各事業年度ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人税及臨時利得税竝ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル分類所得税ニシテ法人税法第十六條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人税額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニ生ジタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第五條　法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第六條　所得税法第六條及第七條ノ規定ハ營業税ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

信託會社ノ各事業年度ノ純益ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第七條　法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及

積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ清算純益トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込濟金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算純益ト看做ス

法人ノ清算期間中ニ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル純益ニシテ本法其ノ他ノ法律ニ依リ營業税ヲ課セラレザルモノノ金額ハ清算純益金額ヨリ之ヲ控除ス

第一項又ハ第二項ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ純益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

法人税及臨時利得税トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第八條　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付營業税ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條　法人ノ各事業年度分ノ算時利得税額ハ當該事業年度ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

營業税ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スル法人ノ純益金額ヨリ控除スベキ臨時利得税額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十條　個人ノ純益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費（收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含

ム以下同ジ）ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

營業利得ニ對スル臨時利得稅額ハ當該臨時利得稅ヲ課セラルベキ年分ノ純益金額ヨリ之ヲ控除ス

前條第二項ノ規定ハ營業稅ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スル個人ノ純益金額ヨリ前項ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ純益ヲ計算ス

第十一條 左ニ掲グル營業ノ純益ニハ營業稅ヲ課セズ

一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌

二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣

三 新聞紙法ニ依ル出版

四 本法施行地外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

五 個人ノ自已ノ收穫シタル農產物、林產物、畜產物若ハ水產物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造

但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ヲ除ク

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物產ノ製造、採掘又ハ採取ヲ業トスル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生ズル純益ニ付營業稅ヲ免除ス

第十三條 個人ノ純益金額四百圓ニ滿タザルトキハ營業稅ヲ課セズ

第十四條 營業稅ノ稅率ハ百分ノ一・五トス

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ營業稅額ヨリ之ヲ控除ス

個人ガ其ノ營業用ノ土地ニ付納付シタル地租額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業稅額ヨリ之ヲ控除ス

前二項ノ場合ニ於テ控除スベキ地租ハ純益計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入セズ

第二項及第四項ノ規定ハ法人ノ清算純益ニ對スル營業稅ニ付之ヲ準用ス

第十五條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十六條 納稅義務アル個人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ純益金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ純益金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ純益金額ハ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ純益金額ノ決定ニ付脫漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定

スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ營業ニ付納稅義務アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定ス

納稅義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所又ハ居所ヲ有セザルニ至ルトキハ第一項ノ規定ニ拘ラズ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ純益金額ヲ決定スルコトヲ得

第十八條 稅務署長ハ每年個人ノ營業ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ純益金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十九條 所得稅法第三十七條、第三十八條及第六十三條ノ規定ハ純益金額ノ決議及決定ニ付之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザル納稅義務者營業ヲ讓渡又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サザルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタルモノト看做ス

第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 所得稅法第七十五條及第七十六條ノ規定ハ營業稅ニ付之ヲ準用ス

第二十四條 納稅義務者第二十二條ノ決定ニ對シ不服アルトキハ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十五條 法人ノ營業稅ハ事業年度每ニ之ヲ徵收ス但シ淸算純益ニ對スル營業稅ハ淸算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

個人ノ營業稅ハ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地ニ住所及居所ヲ有セザルニ至ルトキハ直ニ其ノ營業稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期　其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期　翌年一月一日ヨリ三十一日限

第二十六條　法人解散シタル場合ニ於テ各事業年度ノ純益ニ對スル營業税又ハ清算純益ニ對スル營業税ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納税ノ義務アルモノトス

第二十七條　個人ノ營業税ハ納税義務者ノ住所地、住所ナキトキハ主タル營業場ノ所在地ヲ以テ納税地トス　但シ所得税法ノ甲種ノ事業所得ニ付所得税ヲ納ムル者ニ在リテハ所得税ノ納税地ヲ以テ營業税ノ納税地トス

第二十八條　納税義務者營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後納税地ニ現住セザルトキハ其ノ純益ノ申告、納税其ノ他營業税ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲其ノ地ニ於テ納税管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ　營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移サントスルトキ亦同ジ

第二十九條　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納税義務者又ハ納税義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第三十條　税務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納税義務者若ハ納税義務アリト認ムル者ニ金錢若ハ物品ヲ支拂フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ納税義務者若ハ納税義務アリト認ムル者ヨリ金錢若ハ物品ノ支拂ヲ受クルノ權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第三十一條　政府ハ營業者ノ組織スル團體ニ對シ營業税ニ關スル事項ヲ諮問スルコトヲ得
前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ命令ノ定ムル所ニ依リ調書ヲ提出スベシ

第三十二條　法人税法第二十八條及所得税法第八十六條ノ規定ハ純益金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三十三條　詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ依リ營業税ヲ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス　但シ自首シ又ハ税務署長ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ
前項ノ場合ニ於テ個人ノ營業ニ付營業税ヲ逋脫シタル者ノ純益金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徴收ス

第三十四條　第二十九條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虚僞ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　純益ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル祕密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　第三十三條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附　則

第三十七條　本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十八條　法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル營業税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル

事業年度分ヨリ、清算純益ニ對スル營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、個人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ個人ノ鑛業ノ純益ニ付テハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

第三十九條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅及資本利子稅ニシテ法人稅法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得稅ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅竝ニ清算所得ニ對スル第一種所得稅及第一種所得稅附加稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第四十條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ハ第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ法人ノ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第四十一條 本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及

資本利子稅ニシテ法人稅法第三十八條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ法人稅額ヨリ控除スベキモノハ之ヲ分類所得稅ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第四十二條 本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル鑛產稅額、特別鑛產稅額又ハ取引所營業稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ當該事業年度ノ營業稅額ヨリ控除ス

第四十三條 昭和十四年四月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル個人ノ營業ノ純益ニ付テハ政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ營業稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ純益金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第四十四條 昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅額又ハ特別鑛產稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該鑛業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業稅額ヨリ之ヲ控除ス

第四十五條 第十六條ノ規定中三月十五日トアル昭和十五年ニ限リ四月三十日トス

第四十六條 貯蓄銀行法第二十二條ヲ削除ス

第六節 營業稅法施行規則

（昭和一五年三月三日 勅令第一四三號）

第一條 左ニ掲グル營業ハ營業稅法第二條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ課スベキ營業トス

一　兩替業
二　演劇興行業
三　寄席業
四　遊技場業
五　遊覽所業
六　藝妓置屋業
七　貸座敷業

第二條　法人ノ純益ハ營業稅ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第三條　法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ純益ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ
法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ營業稅法第四條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ純益ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第四條　法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ純益ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ營業稅法第四條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ純益ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第五條　營業稅法第四條ノ規定ハ同法第七條第三項ニ規定スル法人ノ清算期間中ニ於テ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル純益ニシテ營業稅法其ノ他ノ法律ニ依リ營業稅ヲ課セラレザルモノノ金額ノ計

算ニ付之ヲ準用ス

第六條　營業稅ヲ課スベキ純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スル法人ノ純益金額ヨリ控除スベキ臨時利得稅額ハ營業稅ヲ課スベキ純益金額ノ總純益金額ニ對スル割合ヲ臨時利得稅總額ニ乘ジ之ヲ計算ス

第七條　個人ノ純益ハ營業稅ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第八條　營業稅法第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第九條　左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ免除ス

一　金、銀、銅、鉛、亞鉛、錫、ニツケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金竝ニ水銀
二　鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管（鑄鐵管ヲ除ク）
三　銅ノ合金ノ條、竿、板及管
四　アルミニウノム合金及マグネシウムノ合金
五　球軸受、コロ軸受及同部分品

六　汽罐、原動機（機關車ヲ含ム）及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械
七　アルミナ、クリオリツト、チタン白、カーボンブラツク、石灰、窒素、硫酸カリ、燐酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸（アンモニア酸化ニ依ルモノ）、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、ブタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゾール、合成トルオール、アセチルセルロース、人造ゴム、人造レジン（フエノールレジンヲ除ク）、人造タンニン、タンニンエキス及タンニン代用エキス（パルプ廢液ヨリ製造スルモノ）
八　纖維素パルプ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石綿
九　光學用ガラス
十　コンデンスドミルク、カゼイン、大豆カゼイン及落花生カゼイン
十一　感光性乳劑用ゼラチン
十二　鯨革及鮫革

左ニ掲グル物產ノ採掘又ハ採取ノ事業ヲ營ム者ニハ營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ヲ免除ス

一　金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、ニツケル鑛、水銀鑛及クロム鐵鑛
二　石油及石炭

三　砂鑛

第十條　前條ノ製造、採掘若ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ事實アルモノハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付營業稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第十一條　營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同法第十五條又ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ第九條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ有スルトキハ第九條ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第十二條　營業稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スベキ地租額ハ營業稅ヲ課スベキ營業ノ用ニ供スル土地ニ付納付シタルモノニ限ル但シ貸付ケタル土地ニ對スル地租額ノ控除ハ其ノ土地ニ付生ジタル純益ノ總額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ場合ニ於テ營業稅ヲ課スベキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地アルトキハ其ノ地租總額ヲ營業稅ヲ課スベキ營業ニ屬スル收入金額ト其ノ他ノ營業ニ屬スル收入金額トニ按分シテ控除額ヲ計算ス但シ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價額又ハ純益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

第十三條　營業稅法第十四條第二項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營

業税法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ土地ノ地目別ニ其ノ賃貸價格、納付シタル税額及控除ヲ受クベキ税額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第十四條 税務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スベキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 營業税法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業税額ヨリ控除スベキ地租額ハ其ノ營業用ノ土地ニシテ家事ニ關聯セザルモノニ付納付シタルモノニ限ル

前項ノ地租額ハ前年中ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條第二項ノ規定ハ營業税ヲ課スベキ營業ト其ノ他ノ營業トニ共通シテ使用スル土地ニ對スル地租額ノ控除ニ付之ヲ準用ス

第十六條 營業税法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業税額ヨリ地租額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營業税法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地番、地目、賃貸價格及地租額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第十七條 法人ノ各事業年度ノ純益ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄税務署ニ申告スベシ

第十八條 解散シタル法人ノ清算純益ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計

算書ヲ添附シ之ヲ所轄税務署ニ申告スベシ殘餘財産ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スベシ

第十九條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算純益ハ合併ノ日ヨリ十四日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄税務署ニ申告スベシ

第二十條 前三條ノ申告ハ法人税法ニ依ル所得及資本ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第二十一條 個人ノ營業ニ付納税義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、純益金額及純益算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄税務署ニ申告スベシ

第二十二條 税務署長營業税法第十七條、第十九條又ハ第三十三條第二項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第二十三條 營業税法第二十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證憑書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル税務署長ヲ經由シ税務監督局長ニ申出ヅベシ

第二十四條 所得税法施行規則第七十七條及第七十九條ノ規定ハ營業税ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 税務監督局長營業税法第二十二條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

第二十六條 個人ノ營業税ノ納税義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納税困

難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業稅ニ付之ヲ輕減又ハ免除ス

所得稅法施行規則第八十三條乃至第八十五條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル營業稅ノ輕減又ハ免除ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 納稅義務者納稅地ノ稅務署所轄外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ營業場所在地ノ稅務署ニ納稅地ヲ申告スベシ

第二十八條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ稅務署ニ申告スベシ

第二十九條 稅務署長又ハ其ノ代理官營業稅法第二十九條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第三十條 稅務署長ハ所轄內ニ事務所ヲ有スル商業組合、工業組合、同業組合其ノ他ノ營業者ノ團體ニ對シ其ノ團體ニ屬スル各營業者ノ純益金額ノ推定額又ハ順位ヲ諮問スルコトヲ得

前項ノ諮問ヲ受ケタル團體ハ諮問事項ニ對スル調書ヲ作成シ稅務署長ノ指定スル期限迄ニ之ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

附則

第三十一條 本令ハ營業稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條 法人ノ各事業年度ノ純益ニ對スル營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、淸算純益ニ對スル營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合

併ニ因ル分ヨリ、個人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ個人ノ鑛業ノ純益ニ付テハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

第三十三條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以內ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ營業稅法第四條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第三十四條 營業稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資產ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ營業稅法第三十九條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第三十五條 營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スベキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ產出シタル鑛產物ニ對シ納付シタル鑛產稅額及特別鑛產稅額ノ合計額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル鑛業ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スベキ取引所營業稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對シ納付シタル取引所營業稅額ノ十一分ノ三ニ相當スル金額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル取引所ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ規定及法人稅法施行規則第三十條ノ規定ニ依リ營業稅額及所得ニ對スル法人稅額ヨリ控

除スベキ鑛產稅額特別鑛產稅額又ハ取引所營業稅額ハ法人ノ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第三十六條 營業稅法第四十二條ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ鑛產稅額、特別鑛產稅額又ハ取引所營業稅額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ營業稅法第十五條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛產稅及特別鑛產稅ニ在リテハ鑛產物ノ種類別ニ其ノ價額、納付シタル鑛產稅額及特別鑛產稅額竝ニ控除ヲ受クベキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ニ關スル明細書ヲ、取引所營業稅ニ在リテハ每月ノ賣買手數料收入金額、納付シタル取引所營業稅額及控除ヲ受クベキ取引所營業稅額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第三十七條 營業稅法第四十三條ノ規定ニ依ル昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業稅ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ純益金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

一 昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業シ又ハ相續ニ因ルニ非ズシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セザル個人ニハ昭和十五年分ノ營業稅ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ營業ニ付納稅義務アルニ至リタル者ニシテ營業收益稅法第十三條第三項ノ規定ニ依リ純益金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラ

ズ

二 昭和十四年十二月三十日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業稅ヲ免除ス

三 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分純益額金決定前ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ純益金額ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

四 昭和十四年分純益金額決定後昭和十五年分純益金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ純益金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラズ當該營業ノ純益金額ニ對スル昭和十五年分ノ營業稅ニ付當該營業ノ純益ニ對スル昭和十四年分ノ營業收益稅額ニ相當スル金額ヲ輕減ス

五 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分營業稅ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項第三號ノ場合ニ於テ營業稅法第十四條第三項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スベキ地租額ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ニ納付シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

第三十八條 營業稅法第四十四條ノ規定ニ依リ個人ノ鑛業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業稅額ヨリ控除スベキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ハ昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產ニ對シ納付シ

タル鑛產稅額及特別鑛產稅額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日迄ニ產出シタル鑛產物ニ付生ジタル純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ依リ營業稅額ヨリ控除スベキ鑛產稅額又ハ特別鑛產稅額ハ純益ノ計算上之ヲ必要經費ニ算入セズ

第三十九條 營業稅法第四十四條ノ規定ニ依リ個人ノ鑛業ノ純益ニ對スル昭和十六年分ノ營業稅額ヨリ昭和十五年一月一日以後產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅額又ハ特別鑛產稅額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ營業稅法第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ鑛產物ノ種類別ニ其ノ價額、納付シタル鑛產稅額及特別鑛產稅額竝ニ控除ヲ受クベキ鑛產稅額及特別鑛產稅額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第七節 臨時租稅措置法

（昭和一三年三月三一日 法律第五四號）

改正 昭和一四年三月法律第五〇號、同一五年三月同第五四號

第一條 當分ノ內本法ニ依リ所得稅、法人稅、田畑地租、營業稅、砂糖消費稅、織物消費稅、登錄稅及臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第一條ノ二 法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過部分ノ全部又ハ一部ニ相當スル金額ヲ命令ヲ以テ定ムル方法ニ依リ運用スルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ運用金額ニ百分ノ三・六ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

前項ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法人稅額（前項ノ規定ニ依リ輕減スル稅額ヲ控除セザルモノニ依ル）及法人稅法第十四條ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除シタル殘額ニ依ル

第一條ノ三 所得稅法第五條、法人稅法第十二條及營業稅法第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付其ノ設備ヲ增設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ設備增設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ增設シタル設備ニ依ル物產ノ製造、採掘又ハ採取ノ業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス

命令ヲ以テ指定スル製造方法ニ依ル物產ノ製造ヲ開始シタル者又ハ其ノ設備ヲ增設シタル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造開始又ハ設備增設ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ製造方法ニ依ル物產ノ製造業務又ハ其ノ增設シタル設備ニ依ル物產ノ製造業務ヨリ生ズル所得及純益ニ付所得稅、法人稅及營業稅ヲ免除ス

第一條ノ四　左ニ掲グル事項ニ付テハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算ニ關シ命令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

一　命令ヲ以テ指定スル國庫補助金ノ收入

二　命令ヲ以テ指定スル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出

三　命令ヲ以テ指定スル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）、機械其ノ他ノ設備及船舶ノ價額ノ償却

第一條ノ五　法人ノ各事業年度ノ所得中ニ本邦（關東州及南洋群島ヲ含ム）外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル法人稅ヲ輕減ス

個人ノ甲種ノ事業所得中ニ本邦（關東州及南洋群島ヲ含ム）外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第一條ノ六　命令ヲ以テ指定スル鑛物又ハ其ノ鑛產物ヲ產出スル鑛業權者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該鑛業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル分類所得稅又ハ法人稅ヲ輕減ス

第一條ノ七　事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノニ對シ法人稅法

第十七條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項第一號ニ規定スル割合十分ノ三ハ之ヲ十分ノ六トシ同項第二號ニ規定スル割合十分ノ一ハ之ヲ十分ノ四トス

第一條ノ八　本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル生命保險會社ノ甲種ノ配當利子所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ昭和十四年十二月三十一日以前ヨリ引續キ所有スル株式ニ對スル利益又ハ利息ノ配當ニ限リ所得稅法第二十一條ニ規定スル稅率百分ノ十ヲ百分ノ六トシタル場合ノ差減額ニ相當スル分類所得稅ヲ輕減ス

第二條　個人ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル田畑地租ヲ輕減ス

第三條　田畑地租ノ輕減額ハ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　田畑地租額ノ二割

同　三割五分以上五割未滿ナルトキ　田畑地租額ノ三割

同　五割以上七割未滿ナルトキ　田畑地租額ノ四割

同　七割以上ナルトキ　田畑地租額ノ五割

前項ノ輕減額ハ自作ノ田畑ニ對スル其ノ年分ノ地租額ニ付之ヲ計算ス

第四條　平常所得ハ昭和十一年以前三年ノ田畑自作ノ平均所得ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ

新ニ田畑自作ヲ開始シタル者ニ付テハ昭和十二年ノ所得ニ依ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外平常所得ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第六條 田畑地租ノ輕減ヲ申請シタル者ノ田畑自作ノ所得ハ政府ノ調査ニ依リ其ノ年乙種ノ事業所得ノ金額ヲ決定スル時期ニ於テ政府之ヲ確定ス

第七條 所得稅法第十二第第一項第四號ノ規定及同條第五項中相續シタル資產ノ所得計算ニ關スル規定ハ本法ニ依ル田畑自作ノ所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條 法人又ハ個人ノ營業（個人ニ付テハ營業稅法第二條ニ揭グル營業ヲ謂フ以下同ジ）ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少シタルトキハ其ノ納付スル營業稅ヲ輕減ス

第九條 營業稅ノ輕減額ハ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ減少シタル割合ニ從ヒ左ノ割合ノ金額トス

減少割合ガ二割五分以上三割五分未滿ナルトキ　營業稅額ノ二割

同　三割五分以上五割未滿ナルトキ　營業稅額ノ三割

同　五割以上七割未滿ナルトキ　營業稅額ノ四割

同　七割以上ナルトキ　營業稅額ノ五割

第十條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年內ニ終了シタル各事業年度ノ平常純益ニ依ル但シ第一次ノ事業年度ガ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度

ノ平均純益ニ依ル

個人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年ノ平均純益ニ依ル但シ昭和十二年一月一日ヨリ新ニ營業ヲ開始シタル個人ニ付テハ昭和十二年ノ純益ニ依ル

前二項ニ規定スルモノヲ除クノ外法人又ハ個人ノ平常純益ノ算定ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 營業稅ノ經減ヲ受ケントスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ政府ニ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ營業稅ヲ輕減セズ

一　法人ノ營業ノ純益ガ年六千圓以上ナルトキ又ハ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユルトキ

二　個人ノ營業ノ純益ガ六千圓以上ナルトキ

三　法人ノ資本金額ガ二十萬圓以上ナルトキ

第十三條 營業稅法第四條ノ規定ニ依ル法人ノ營業ノ純益ノ計算ニ付、同法第十條ノ規定ハ本法ニ依ル個人ノ營業ノ計算ニ付之ヲ準用ス

臨時利得稅法第六條及第七條ノ規定ハ本法ニ依ル法人ノ資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條乃至第二十條 削　除

第二十一條 政府ノ承認ヲ受ケ命令ヲ以テ定ムル樽以外ノ容器ニ容レタル黑糖及白下糖ハ之ヲ砂糖

消費税法第三條第一種甲ノ砂糖ト看做ス但シ分蜜シタルモノ、黑糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十二條 人造絹絲ヲ用モタル織物ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ織物消費税法第一條但書ノ織物ト看做ス

第二十二條ノ二 耕作ヲ目的トスル土地（其ノ土地ニ附隨シテ利用セラルル土地ヲ含ム）ノ所有權ノ交換ヲ爲シタル場合ニ於テハ交換ニ因ル所有權ノ取得又ハ交換ノ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ登記税ヲ免除ス

前項ノ規定ハ永小作權ノ交換又ハ前項ノ土地ノ所有權ト永小作權トノ交換ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 本法ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租税ハ法令上ノ納税資格要件ニ關シテハ輕減又ハ免除セラレザルモノト看做ス但シ第一條ノ二乃至第一條ノ八ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セラルル租税ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條ノ二 樺太ニ於テハ本法ノ施行ニ關シ必要アルトキハ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

附　則

第二十四條 本法ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 田畑地租ニ付テハ昭和十三年分ヨリ、營業收益税中法人ノ營業收益税ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分、法人ノ營業收益税ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第十六條ノ規定ハ昭和十二年分營業收益税ヨリ之ヲ適用ス

第二十六條 鑛産税及特別鑛産税ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十七條 昭和十三年分ノ特別砂鑛區税ニ付テハ昭和十三年四月以後ノ月割ヲ以テ其ノ税額ヲ計算シ同年五月三十一日迄ニ之ヲ納付セシム

第二十八條 左ニ掲グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費税ヲ課スベカリシモノ

二　本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費税法第七條ノ規定ニ依リテ消費税ヲ納付セズシテ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタルモノ

三　本法施行前消費税ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

四　本法施行前消費税ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

第二十九條 本法施行前消費税ヲ納付シタル織物ニシテ本法ニ依リ消費税ヲ課セザルコトト爲リタルモノ又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモ織物消費税法第三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

第三十條 本法ハ支那事變終了後其ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

附　則（昭和一四、三法律第五〇號）

本法ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得稅、法人ノ營業收益稅及法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭昭十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得稅、個人ノ營業收益稅及個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本法ヲ適用ス

左ニ揭グル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一　本法施行前消費稅ヲ課スベカリシモノ

二　本法施行前輸出若ハ朝鮮移出ノ目的ヲ以テ又ハ織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リテ消費稅ヲ納付セズシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタルモノ

三　本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

四　本法施行前消費稅ヲ納付シテ輸出シ又ハ朝鮮ニ移出シタルモノ

本法施行前消費稅ヲ納付シタル織物ニシテ第二十一條又ハ第二十二條ノ改正規定ニ依リ消費稅ヲ課セザルコトト爲リタルモノ又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ本法施行後輸出シ又ハ朝鮮ニ移出スルモノ

織物消費稅法第三條第二項ノ規定及大正九年法律第五十一號ヲ適用セズ

附　則（昭和一五、三、法律第五四號）

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人稅及法人ノ營業稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得稅及營業稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス但シ第一條ノ六ノ規定中分類所得稅ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產稅及特別鑛產稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

前項ノ規定ニ依リ昭和十五年一月一日以後同年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛物又ハ鑛產物ニ付改正前ノ第十九條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ昭和十二年中ニ於ケル鑛物又ハ鑛產物ノ產出數量ノ十二分ノ三ニ相當スル數量ヲ以テ同條ニ規定スル昭和十二年中ニ於ケル產出數量ト看做ス

昭和十四年分以前ノ田畑地租昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益稅及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區稅ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第八節　臨時租稅措置法施行規則

（昭和一三年四月一日大藏省令第二一號）

改正　昭和一四年四月大藏省令第一三號、同一五年四月同第一九號

第一條　法人ガ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ別表ニ揭グル事業ノ用ニ供スル設備（船舶ヲ含ム）ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テ又ハ國債證券、興業債券（臨時資金調整法第六

條第四項ノ規定ニ依リ元本ノ償還及利息ノ支拂ニ付政府ノ保證アルモノニ限ル）其ノ他大藏大臣ノ指定シタル有價證券ヲ取得スルニ要スル資金ニ充テタルトキハ臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ヲ輕減ス

本令ニ於テ超過留保金額トハ臨時租稅措置法第一條ノ二第二項ノ規定ニ依ル法人ノ各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ノ所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過部分ノ金額ヲ謂フ

第一條ノ二 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル設備ノ新設、擴張又ハ改良ヲ爲スニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「設備擴張留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

第一條ノ三 法人ガ各事業年度ノ超過留保金額ノ全部又ハ一部ヲ第一條ニ定ムル有價證券ノ取得ニ要スル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ利益金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ「之ヲ證券保有留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入ルベシ

前項ノ「證券保有留保金」勘定（貸方勘定）ニ繰入レタル金額ヲ以テ第一條ニ規定スル有價證券ヲ取得シタルトキハ「指定證券運用」勘定（借方勘定）ヲ設ケ他ノ財產ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第一條ノ四 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ左ノ期間內ニ各

所定ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

一 「設備擴張留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ二年

二 「證券保有留保金」勘定繰入金額ニ付テハ其ノ繰入レタル利益金ノ屬スル事業年度終了ノ日ヨリ六月

第一條ノ五 法人ガ前條ニ定ムル期間內ニ於テ「設備擴張留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「證券保有留保金」勘定ニ振替ヘ又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ「設備擴張留保金」勘定ニ振替ヘ其ノ運用ノ方法ヲ變更セントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ振替ヘタル金額ヲ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出スルコトヲ要ス

法人ガ「指定證券運用」勘定ヲ以テ分別計理シタル有價證券ヲ處分シ設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ノ支出ニ充テントスルトキハ稅務署長ノ承認ヲ受クベシ

第一條ノ六 「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニシテ第一條ノ四ニ定ムル期間內ニ各所定ノ運用ノ爲ニ支出セザリシモノアルトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中運用ノ爲ニ支出セザリシ金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス前條第一項ノ場合ニ於テ直ニ變更後ノ運用ノ爲ニ支出セザリシ金額アルトキ亦同ジ

「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ以テ取得シタル有價證券ヲ處分シタルトキ又ハ有價證

券ニ付元本ノ償還アリタル後直ニ之ニ代ルベキ有價證券ヲ取得セザリシトキハ繰入金額ニ付輕減セラレタル法人稅額中當該有價證券ノ取得ニ要シタル金額ニ對スル輕減稅額ニ相當スル金額ヲ追徵ス但シ其ノ處分ニ付稅務署長ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前二項ノ追徵稅額ハ第一條ノ四ニ定ムル期間滿了ノ日又ハ有價證券ヲ處分シ若ハ有價證券ニ付元本ノ償還アリタル日ノ屬スル事業年度分ノ法人稅ヲ徵收スル際之ヲ徵收ス

第一條ノ七 法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ超過金額ハ其ノ留保金額中所得總額ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スル金額ニ所得總額ニ對スル法人稅ヲ課スベキ所得ノ割合ヲ乘ジ之ヲ計算ス

第一條ノ八 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額及其ノ運用豫定計畫ヲ記載シタル書類ヲ添附シ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ九 臨時租稅措置法第一條ノ二ノ規定ニ依リ法人稅ノ輕減ヲ受ケタル法人ハ「設備擴張留保金」勘定又ハ「證券保有留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付每事業年度其ノ運用明細書ヲ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一條ノ十 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受クベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ增設ハ製造事業ニ在リテハ昭和十四年四月一日以後爲シタル設

備ノ增設、採掘又ハ採取ノ事業ニ在リテハ昭和十五年四月一日以後爲シタル設備ノ增設採掘又ハ採取ノ事業ニ在リテハ昭和十五年四月一日以後爲シタル設備ニシテ增設前ノ製造又ハ產出能力ニ對シ十分ノ三以上ニ相當スル製造又ハ產出能力ヲ增加シタルモノニ限ル

前項ノ規定ニ該當スル設備ノ增設ヲ爲シタル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ事實アル者ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ノ設備ノ增設ニ付所得稅、法人稅及營業稅ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限リ其ノ免除期間ヲ繼承ス

第一條ノ十一 臨時租稅措置法第一條ノ三ノ規定ニ依リ所得稅、法人稅及營業稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條又ハ營業稅法第十五條若ハ第十六條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ增設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ有スルトキハ其ノ增設シタル設備ニ依ル製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得又ハ純益ト其ノ他ノ所得又ハ純益トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第一條ノ十二 大藏大臣ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上大藏大臣ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金又ハ收入金額ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第一條ノ十三 別表ニ掲グル事業ニ關シ研究ヲ爲スニ要シタル支出金額（土地ニ關スル支出金額ヲ除ク）ニシテ昭和十四年四月一日以後支出シタルモノハ資本的支出ニ屬スル場合ニ於テモ所得稅法ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス

前項ノ場合ニ於テ法人ガ其ノ支出金額ヲ資產トシテ計算シタルトキハ法人ニ對スル法人稅、營業稅及臨時利得稅ノ課稅ニ關シテハ之ヲ資產トシテ計算セザリシモノト看做ス

第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ豫メ研究ノ目的及研究ヲ爲スニ要スル支出ノ詳細ヲ記載シタル書類ヲ所轄稅務署ニ提出スベシ

第一條ノ十四 第一條ノ十二又ハ前條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條若ハ法人稅法第十八條營業稅法第十五條若ハ第十六條又ハ臨時利得稅法第十五條若ハ第十六條第一項ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ十五 別表ニ掲グル事業ノ用ニ供スル建物（工場用以外ノ建物ヲ除ク）、機械其ノ他ノ設備及船舶ニシテ昭和十四年四月一日以後新設、增設又ハ製造シタルモノニ付新設、增設又ハ製造後三年間左ノ各號ノ金額ノ合計額以內ノ價額ノ償却ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ償却金額ハ所得法稅ニ依ル所得、法人稅法ニ依ル所得、營業稅法ニ依ル純益及臨時利得稅法ニ依ル利益ノ計算上之ヲ損金又ハ必要經費ニ算入ス

一　取得價額ノ三分ノ一ニ相當スル金額ニ付堪久年數ヲ三年トシテ均等償却ノ方法ニ依リ算出シタル償却金額

二　取得價額ノ三分ノ二ニ相當スル金額ニ付堪久年數ニ依リ算出シタル償却金額

第一條ノ十六 臨時租稅措置法第一條ノ五第一項ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル法人ノ本邦（關東州及南洋群島ヲ含ム以下同ジ）外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニハ法人稅法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ

第一條ノ十七 臨時租稅措置法第一條ノ五第二項ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル個人ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ハ其ノ者ノ所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ甲種ノ事業所得金額ニ對スル同控除後ノ甲種ノ事業所得金額ノ割合ヲ其ノ者ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ本邦外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニハ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ

第一條ノ十八 臨時租稅措置法第一條ノ五ノ規定ニ依リ法人稅又ハ分類所得稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ法人稅法第十八條又ハ所得稅法第三十四條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ十九 臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ左ノ鑛物ヲ指定ス

一　金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、滿俺鑛、ニツケル鑛、水銀鑛及クロム鐵鑛

二　石油及石炭

第一條ノ二十　第一條ノ十六及第一條ノ十七ノ規定ハ臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依ル輕減稅額算出ノ基礎タル鑛業ヨリ生ズル所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ二十一　臨時租稅措置法第一條ノ六ノ規定ニ依リ分類所得稅又ハ法人稅ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ所得稅法第三十四條又ハ法人稅法第十八條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第一條ノ二十二　事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ臨時租稅措置法第一條ノ七ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一　事業ノ經營ニ直接關係ナキ資產（保全資產ト稱ス以下同ジ）ノ價額ガ其ノ總資產價額ノ百分ノ三十以下ナル同族會社

二　保全資產ノ價額ガ其ノ總資產價額ノ百分ノ三十ヲ超エ同百分ノ四十以下ニシテ事業ヨリ生ズル所得（事業所得ト稱ス以下同ジ）ノ金額ガ總所得金額ノ百分ノ五十ヲ超ユル同族會社

三　保全資產ノ價額ガ其ノ總資產價額ノ百分ノ四十ヲ超エ同百分ノ五十以下ニシテ事業所得ノ金額ガ其ノ總所得ノ百分ノ七十ヲ超ユル同族會社

第一條ノ二十三　生命保險會社ノ所有スル株式ヨリ生ズル甲種ノ配當利子所得ニシテ臨時租稅措置法第一條ノ八ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ輕減スベキモノハ同法ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ證スル主務官廳ノ證明書ヲ當該配當利子所得ノ支拂確定前所轄稅務署長ヲ經由シ其ノ支拂者ニ屆出タルモノニ限ル

第一條ノ二十四　田畑自作ノ期間一年未滿ニシテ其ノ所得ガ一年分ノ所得ニ非ズト認メラルル場合ニ於テハ田畑地租ノ輕減ヲ受クベキ年ニ於ケル自作ノ時期ト同一ノ時期ニ付昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ニ於テ自作ヲ爲シタルモノトシテ其ノ所得ヲ見積リ算出シ平常所得ヲ計算ス

第二條　田畑地租ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ毎年三月十五日迄ニ土地所在ノ市町村（市制第六條又ハ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ區、以下同ジ）ヲ經由シ其ノ所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ土地ノ所在、地番、地目、地積及賃貸價格ヲ記載シ田畑自作ノ所得及平常所得ノ計算書ヲ添附スベシ但シ申請者ガ自己ノ田畑ノ全部ニ付申請ヲ爲ス場合ニ於テハ地目毎地積及賃貸價格ノ合計額ヲ記載シ各筆ノ記載ヲ省略スルコトヲ得

第一項ノ申請ヲ爲シタ後自作ヲ爲スニ至リタル田畑ニ付テハ其ノ際前二項ニ準ジ其ノ地租ノ輕減ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第三條　稅務署長ハ前條第一項ノ申請ヲ爲シタル者ノ田畑自作ノ所得ヲ調査シ其ノ年ノ乙種ノ事業

所得ノ金額ヲ決定スル時期ニ於テ之ヲ確定スベシ

第四條 第二條第一項ノ申請アリタル場合ニ於テ税務署長其ノ年ノ田畑自作ノ所得ガ平常所得ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第五條 税務署長田畑地租ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキ之ヲ納税義務者及土地所在ノ市町村ニ通知スベシ

第六條 税務署長第二條ノ申請ヲ受理シタル場合ニ於テ申請者ノ住所地ガ其ノ管轄區域内ニ在ラザルトキハ申請者ノ住所地ヲ管轄スル税務署長ニ協議シ之ガ處分ヲ爲スベシ

第七條 市町村ハ田畑地租ノ輕減額ヲ地租法第七十四條ノ例ニ準ジ税務署長ニ報告スジシ

第八條 法人ノ平常純益ハ昭和十一年以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ハ昭和十二年中ニ終了シタル法人ニ付テハ昭和十二年中ニ終了シタル事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ純益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第九條 法人ノ平常純益ヲ計算スルニ當リ營業税ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ期間ガ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ期間ト異ル場合ニ於テハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ノ純益ハ營業税ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ之ヲ換算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ昭和十一年以前三年内又ハ昭和十二年中ニ終了シタル各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ營業税ノ輕減ヲ受クベキ事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ平常純益ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ純益ヲ合算シテ之ヲ計算ス。

第十一條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ營業税ノ輕減ヲ受クベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年又ハ昭和十二年ノ純益ヲ算出シテ平常純益ヲ計算ス

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條 營業税ノ輕減ヲ受ケントスル者ハ營業税法ニ依ル純益金額ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄税務署ニ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ平常純益ノ計算書ヲ添附スベシ

第十三條 前條ノ申請アリタル場合ニ於テ税務署長其ノ營業ノ純益ガ平常純益ニ對シ二割五分以上減少セズト認メタルトキハ之ヲ却下スベシ

第十四條 税務署長營業税ノ輕減ノ決定ヲ爲シタルトキハ之ヲ納税義務者ニ通知スベシ

前項ノ通知ハ營業税法ニ依ル純益金額ノ決定通知書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十五條 臨時租税措置法第十二條第一號ノ年六千圓ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ六千圓ニ乘ジ之ヲ

十二分シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第十六條 臨時租稅措置法第十二條第一號ノ年百分ノ七ノ割合ノ金額ハ事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ七ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十七條乃至第二十條 削除

第二十一條 臨時租稅措置法第二十一條ノ規定ニ依リ稅務署長ノ承認ヲ受ケ罐、箱其ノ他類似ノ容器ニ容レタル黑糖及白下糖ハ之ヲ砂糖消費稅法第三條第一種甲ノ砂糖ト看做ス

第二十二條 臨時租稅措置法第二十二條ノ規定ニ依リ左ニ揭グル絲ト人造絹絲トヲ以テ組成シ其ノ人造絹絲ノ重量ガ全重量百分中五十ヲ超エザル織物ハ之ヲ織物消費稅法第一條但書ノ織物ト看做ス

一 綿絲

二 全重量百分中五十ヲ超ユル綿トステープルフアイバートノ混紡絲

第二十三條 臨時租稅措置法第二十一條第三號、第二十一條ノ二及第二十二條ノ規定ニ依リ織物消費稅ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造セントスル者ハ織物消費稅法施行規則第二條ノ規定ニ依ル申告ノ際同條但書ニ規定スル事項ノ外第二十一條第三號第二十一條ノ二及第二十二條第二號

ニ規定スル混紡絲ニ付其ノ原料及重量割合ヲ併セ申告スベシ

第二十四條 耕作ヲ目的トスル土地（其ノ土地ニ附隨シテ利用セラルル土地ヲ含ム）ノ所有權ノ交換ヲ爲シタル場合ニ於ケル交換ニ因ル所有權ノ取得又ハ交換ノ爲ニスル所有權ノ保存ノ登記ニシテ交換ガ左ニ揭グル條件ヲ具備スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ臨時租稅措置法第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一 交換ガ農地委員會又ハ國、北海道若ハ府縣ノ補助金ノ交付ヲ受ケテ設置セラレタル市町村ノ經濟更生委員會ノ斡旋ニ基クモノナルコト

二 交換地ノ雙方又ハ一方ガ自作地ナルコト

三 交換地ノ價格ノ差ガ價額ノ多額ナル一方ノ十分ノ三以內ナルコト

前項ノ規定ハ永小作權ノ交換又ハ前項ノ土地ノ所有權ト永小作權トノ交換ヲ爲シタル場合ニ付之ヲ準用ス

附 則

本令ハ臨時租稅措置法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三年ニ限リ四月三十日トス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ淸算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分營業收益稅ニ對スル第十二條ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ

在リテハ十四日内ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日内ニ之ヲ爲スベシ

個人ノ昭和十三年分營業收益税ニ對スル第十二條ノ申請ハ昭和十三年四月十五日迄ニ之ヲ爲スベシ

本令施行前ヨリ引續キ臨時租税措置法第二十一條又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ新ニ織物消費税ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製税スル者ハ本令施行後一月内ニ第二十三條ニ規定スル事項ヲ所轄税務署ニ申告スベシ

附　則（昭和一四、四、大藏省令第一三號）

本令ハ昭和十四年法律第五十號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種所得税、法人ノ營業收益税及法人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、第三種所得税、個人ノ營業收益税及個人ノ臨時利得税ニ付テハ昭和十四年分ヨリ本令ヲ適用ス

第二十條ノ改正規定ハ昭和十四年分鑛產税ヨリ之ヲ適用ス

本令施行前ヨリ引續キ臨時租税措置法第二十一條ノ改正規定ニ依リ新ニ織物消費税ヲ課セザルコトト爲リタル織物ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以内ニ第二十三條ノ改正規定ニ規定スル事項ヲ所轄税務署ニ申告スベシ

附　則（昭和一五、四、大藏省令第一九號）

本令ハ昭和十五年法律第五十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人税及法人ノ營業税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ所得税及營業税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第一條ノ二十及二十一ノ規定中分類所得税ニ關スルモノハ昭和十六年分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル鑛產物ニ對スル鑛產税及特別鑛產税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年分以前ノ田畑地租、昭和十四年分以前ノ個人ノ營業收益税及昭和十五年分以前ノ特別砂鑛區税ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

別　表

一　金屬鑛業
二　石炭鑛業
三　石油鑛業
四　製鐵業
五　非鐵金屬製錬業
六　輕金屬製造業
七　鋼船製造業
八　蒸汽罐製造業

九　原動機製造業
十　電氣機械器具製造業但シ家庭用電氣器具製造業ヲ除ク
十一　採鑛、選鑛及製錬機械器具製造業
十二　金屬工機械製造業
十三　工具及刀具類製造業
十四　化學工業用機械裝置製造業
十五　自動車及同部分品製造業但シ小型自動車及同部分品製造業ヲ除ク
十六　鐵道用及軌道用車輛製造業
十七　航空機及同部分品製造業
十八　軸受及鋼球製造業
十九　兵器及同部分品製造業
二十　硫酸製造業但シ乾式製錬所ヨリ排棄セラルル鑛煙中ノ亞硫酸瓦斯ヲ回收シテ製造スルモノニ限ル
二十一　石炭酸製造業
二十二　コールタール分溜物製造業
二十三　代用燃料製造業

二十四　硝酸製造業
二十五　染料中間物其ノ他コールタール分溜物誘導體製造業
二十六　パルプ製造業
二十七　硫酸アンモニア製造業
二十八　石油精製業
二十九　人造石油製造業
三十　海運業

第九節　所得稅法人稅內外地關涉法

（昭和一五年三月二九日法律第五五號）

第一條　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動產所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

第二條　朝鮮、臺灣、樺太若ハ南洋群島ニ住所ニ有スル個人、此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人（關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヲ除ク）又ハ此等ノ地域ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ配當利子所得ニ付テハ同法第二十二條

第一項ノ規定ニ拘ラズ同法第二十一條第一項又ハ第二項ニ規定スル稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スル關東州ニ住所ヲ有シ若ハ一年以上居所ヲ有スル個人又ハ關東州ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ所得稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニ付亦同ジ

第三條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ付テハ所得稅法ニ依ル分類所得稅ヲ課セズ

一 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル公債、社債、朝鮮金融債券又ハ預金ノ利子及合同運用信託ノ利益

二 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當稅ヲ課シ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ普通配當稅ヲ課スルモノ

三 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スル一時恩給及退職給與竝ニ此等ノ性質ヲ有スル給與

第四條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動產所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル資產ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ同法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ八ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

前項ニ規定スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ事業所得中ニ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケ

ル營業ヨリ生ズルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ同法第二十一條第一項又ハ第三項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

一 所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除前ノ事業所得ノ金額ガ千圓ヲ超ユルトキ　百分ノ七

二 前號ノ金額ガ千圓以下ナルトキハ　百分ノ四・五

所得稅法第二十一條第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第一項ニ規定スル個人ノ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配中ニ朝鮮又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ資本利子稅ヲ課スルモノアルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ所得稅法第二十一條第一項ノ規定ニ拘ラズ百分ノ六ノ稅率ニ依リ分類所得稅ヲ賦課ス

第五條 信託會社ガ其ノ引受ケタル合同運用信託ノ信託財產ニ付朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅及資本利子稅ハ各之ヲ所得稅法ニ依リ納付シタル甲種ノ配當利子所得ニ對スル分類所得ト看做シ同法第二十三條ノ規定ヲ適用ス

第六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得稅法ニ依ル綜合所得稅ヲ課セズ

第七條 所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ第二種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スルモノニ所得稅法第三十條第一項第三號ノ規定ニ拘ラズ前年中ノ收入金額（無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額）ヨリ其ノ千分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ算出ス

第八條 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資產、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得ニ付テハ所得稅法第十一條第一項第七號及第二十九條第一號ノ規定ヲ適用セズ

第九條 配當利子特別稅法第十三條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

外貨債特別稅法第十八條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ之ヲ準用ス

第十條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人稅法第三條第一號ノ所得ニ付テハ同法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ三ノ稅率ニ依リ法人稅ヲ賦課ス

朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ本人稅法第三條第二號ノ所得及同條第三號ノ資本ニ付テハ法人稅法ニ依ル法人稅ヲ課セズ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ法人稅法第三條第二號ノ所得ニ付亦同ジ

第十一條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太、南洋群島又ハ法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及資本竝ニ淸算所得ニ付法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ所得及資本ニ付テハ法人稅法第十六條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル第一種ノ所得ニ對スル所得稅額及法人資本稅額ノ合計額（南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ニ在リテハ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ノミニ依ル）ニ相當スル金額ヲ以テ法人稅ノ稅額トス

第十二條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ命

令ヲ以テ定ムルモノハ之ヲ法人税ト看做シ法人税法第四條第二項ノ規定ヲ適用ス

第十三條 法人ノ所有スル國債ノ利子ガ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子税ヲ課セラルルモノナルトキハ當該公債及社債利子税ヲ配當利子特別税ト看做シ法人税法第十三條ノ規定ヲ適用ス

第十四條 法人税法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ所得中ニ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ其ノ部分ノ所得ニ付テハ法人税法第十六條第一項第一號ノ規定ニ拘ラズ百分ノ十五ノ税率ニ依リ法人税ヲ賦課ス

第十五條 法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得税及資本利子税、臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當税竝ニ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル普通配當税ハ之ヲ所得税法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得税ト看做シ法人税法第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第十六條 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於テ所得税ヲ免除スル各當該地ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヨリ生ズル所得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ所得税法ニ依ル所得税及法人税法ニ依ル法人税ヲ免除ス

第十七條 前條ノ規定ニ該當スル事業ガ製鐵事業法ニ依リ所得税又ハ所得ニ對スル法人税ノ免除ヲ受クルコトヲ得ベキ製鐵事業ニ相當スルモノナルトキハ之ヲ所得税法施行地ニ在ル製鐵事業又ハ

法人税法施行ニ在ル製鐵事業ト看做シ製鐵事業法第七條第三項（第十條、第十一條第二項及第四十三條ノ二第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ金額又ハ製鐵事業法第四十二條ノ規定ニ依リ適用セラルル製鐵業奬勵法第二條第三項ノ金額ヲ計算ス

前項ノ規定ハ輕金屬製造事業法、航空機製造事業法、人造石油製造事業法其ノ他ノ法律ニ依リ所得ニ對スル法人税ヲ免除スル事業ノ一部ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ在ル場合ニ於テ各其ノ法律ノ規定スル所ニ依リ當該事業ヨリ生ズル所得中一定金額ヲ超過スル部分ニ對シ法人税ヲ免除セザルトキニ於ケル其ノ超過額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

附　則

第十八條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 大正九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 不動産所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得税竝ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得税ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本法ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第二十一條　法人ノ本法施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得及本法施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅竝ニ本法施行前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ關シテ仍從前ノ例ル

第二十二條　朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、銀行預金及所得稅法第二十一條第二項ニ規定スル預金ノ利子竝ニ命令ヲ以テ定ムル合同運用信託ノ利益ニ付テハ第六條ノ規定ニ拘ラズ當分ノ內利子又ハ利益ノ支拂ヲ受クル者ノ申請ニ依リ利子又ハ利益支拂ノ際其ノ金額又ハ利益金額ヲ課稅標準トシ百分ノ十五ノ稅率ニ依リ綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得

所得稅法第百六條第二項乃至第四項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十三條　所得稅法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ課シタルモノニ付テハ當分ノ內所得稅法ニ依ル綜合所得稅ヲ課セズ

第一〇節　所得稅法人稅內外地關涉法施行規則

（昭和一五年三月三一日　勅令第一五八號）

第一條　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル不動產所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得竝ニ同法第二十八條ニ規定スル所得ニ付テハ左ニ揭グル場合ヲ除クノ外所得稅法人稅內外地關涉法第一條又ハ第六條ノ規定ニ依リ分類所得稅及綜合所得稅ヲ課セズ

一　所得稅法施行地ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二　朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル者各當該地ニ於ケル法令ニ依ル所得金額決定前所得稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三　所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人又ハ所得稅法施行地ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ所得稅法第十條ニ規定スル甲種ノ勤勞所得ニ付テハ所得稅法人稅內外地關涉法第一條ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ課セズ

第二條 所得稅法人稅內外地關涉法第四條第二項ノ規定ニ依リ分類所得稅ヲ賦課スル場合ニ於テ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得アルトキハ所得稅法第十七條又ハ第十八條ノ規定ニ依ル控除ハ先ヅ所得稅法施行地ヨリ生ズル事業所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ所得稅法人稅內外地關涉法第四條第二項ニ規定スル所得ニ及ブ

第三條 所得稅法人內外地關涉法第七條ノ規定ニ依リ前年中ノ收入金額ヨリ其ノ十分ノ四ヲ控除シタル金額ニ依リ個人ノ總所得ヲ計算スベキ合同運用信託ノ利益ハ朝鮮所得稅令第五條ニ規定スル合同運用信託ノ利益トス

第四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資產又ハ營業ニ對シ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ所得稅法人稅內外地關涉法第十二條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第五條 所得稅法人稅內外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ其ノ製造採掘又ハ採取ノ事業ノ事業場所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ相當スト認メタル證明書

ヲ添附シ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

所得稅法施行規則第四十三條及法人稅法施行規則第八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル申請ニ付之ヲ準用ス

第六條 所得稅法人稅內外地關涉法第十六條ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ハ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ當該製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付定メラレタル所得稅又ハ法人稅ノ免除期間ニ依ル

所得稅法施行規則第三條及法人稅法施行規則第七條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ所得稅又ハ法人稅ヲ免除スベキ期間ニ付之ヲ準用ス

附　則

第七條 本令ハ所得稅法人稅內外地關涉法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條 不動產所得、乙種ノ配當利子所得、事業所得、乙種ノ勤勞所得、山林ノ所得及乙種ノ退職所得ニ對スル分類所得稅竝ニ個人ノ總所得ニ對スル綜合所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

法人ノ各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、淸算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、本令ヲ適用ス

第九條　所得稅法人稅內外地關涉法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ支拂ノ際綜合所得稅ヲ賦課スルコトヲ得ベキ合同運用信託ノ利益ハ所得稅法施行規則第三十三條ニ規定スルモノニ限ル

第十條　所得稅法施行規則第百十四條及第百十五條ノ規定ハ所得稅法人稅內外地關涉法第二十二條ノ規定ニ依ル綜合所得稅ノ賦課徵收ニ付之ヲ準用ス

昭和十六年一月二十五日印刷
昭和十六年一月二十九日發行

新定價一圓八十錢

著者　黑川薰

東京市芝區田村町三ノ四ノ一
富士書房

發行者　加瀨裕康

東京市京橋區湊町二ノ一六
第一印刷所

印刷者　田端勇

東京市芝區田村町三ノ四

發行所　富士書房

振替口座東京七一〇六三番

不許複製

貴族院議員 下村宏氏序
東京能率研究所編

遞信窓口讀本

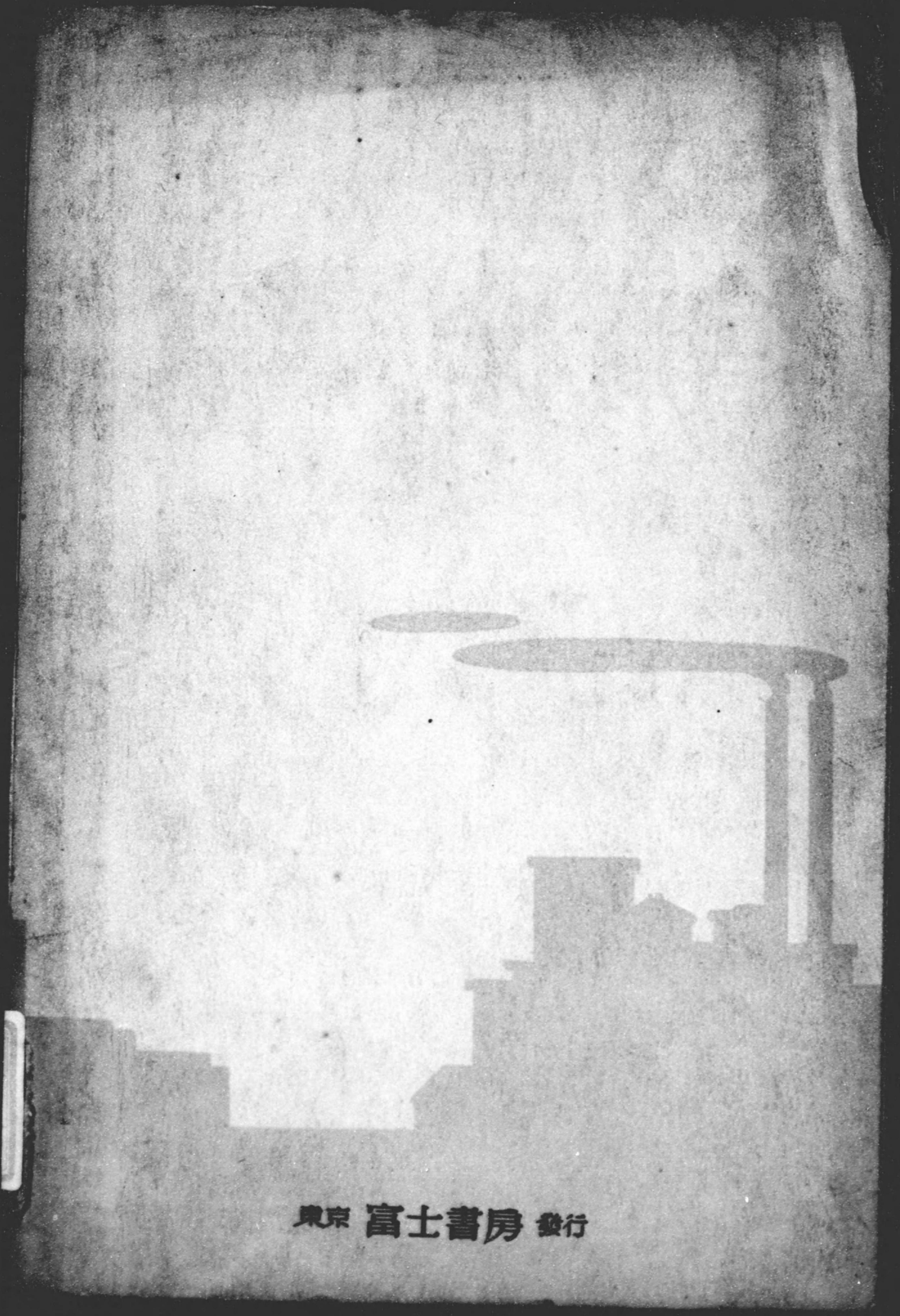
菊半截上製二九〇頁
定價一圓五十錢
〒十錢

最新刊好評！

本書は現行郵便業務の全般を詳細正確に收錄し、具體的な例を追つてこれを問答式實務本位に解說したもので、各會社・商店の庶務、文書課より便利重寶この上ない必備の書として推奬せらる。

東京市芝區田村町三ノ四
富士書房
振替東京一七六〇三

414
214



東京 富士書房 發行